

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 15 日現在

機関番号：32627

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370306

研究課題名(和文) 16世紀～19世紀イギリスの「博物誌」と「知」の分配における「公平性」

研究課題名(英文) Impartiality in Natural History and Distribution of Knowledge in 16th to 19th century Britain

研究代表者

荒木 正純 (Araki, Masazumi)

白百合女子大学・文学部・教授

研究者番号：80015883

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：17世紀以降のイギリスにおける、博物誌や旅行記、演劇・小説に登場する、新世界やアジア表象についての研究を行った。具体的には、シェイクスピア作品のアジアでの拡がり、東南アジアがイギリスの知の枠組みの中にいかに包摂されてきたかについて分析した(松田)。またヴィジュアル・メディアの機能を重視し、16世紀以降の博物誌・旅行記における東アジア表象を研究した(吉原)。さらに、同時代の旅行記や日記に着目し、博物誌が16世紀イングランドの知の拡大に与えた効果を意義を論考した(中井)。このように17世紀以降のイギリスにおける知の分配を分析し、知の公平と不公平が同じ地平で起きることを論証した(荒木)。

研究成果の概要(英文)：The project, "Impartiality in Natural History and Distribution of Knowledge in 16th to 19th century Britain," researched the representations and discourses about New World and Asia which appear in natural history, travel writings, dramas and novels in 17th to 19th century Britain. Focusing on the historical, local, or topical cultural materials in the literatures such as Orangutan, pineapple, orang-laut, and Shakespeare, the research showed that the distribution of knowledge in early modern Britain developed the impartiality and partiality of knowledge at the same time, and established modern mindset to comprehend New World and Asia since 19th century.

研究分野：イギリス文学

キーワード：博物誌 南洋表象 ポスト・コロニアル研究 東アジア表象

1. 研究開始当初の背景

本研究計画は、研究代表者・研究分担者の16世紀から19世紀に関するこれまでの研究成果を踏まえた上で、共同研究を行うことによる、新たな研究の展開を狙うものであった。

研究代表者(荒木正純)は日本に新歴史主義批評を導入した研究者のひとりであり、近年は日英の事典や研究書におけるオラウタン等の類人猿の表象と近代化の問題の研究を行ってきた。また、研究分担者はそれぞれ、これまでイングランドの蒐集文化や見世物文化と植民地主義(吉原ゆかり)、フランス・ベイコンに代表される啓蒙主義思想と、18世紀小説におけるパイナップル等の新大陸表象(中井理香)、さらに、初期近代イギリス演劇における他者表象(松田幸子)等、文学テキストのみならず、社会・文化的コンテクストから、16世紀から19世紀にかけてのイングランドの近代化の諸相を研究してきた。

本研究計画は、本研究計画参加予定者の過去の研究業績を有機的に発展させるものとして、分担者の研究業績やこれまでに受けた研究費とその成果等が示す過去の研究業績を基にして、新たに「知の分配」の「公平性」という観点から各自の研究成果を再構築することを企図し計画された。

2. 研究の目的

本研究は、16世紀から19世紀までの、いわゆるイギリスの「博物誌」とその研究のなかで培われた「知」の分配における「公平性」の問題を考察することを目的としている。一般的には、17世紀後半イングランドで興り、18世紀ヨーロッパにおいて主流となった啓蒙思想にかかわる課題となる。啓蒙思想は、「自然の光」(lumen naturale)を自ら用いて超自然的な偏見(不公平性)を取り払い、人間本来の理性の自立を促すという意味であったからだ。政治思想の分野では、自然法論が発達し、とくに社会契約説が流行し、理性の普遍性や不変性が人間の平等(公平性)の根拠とされ、平等主義の主張となってあらわれたと考えられる。

啓蒙時代のヨーロッパの消費生活は、非ヨーロッパ世界の物質なしには成り立たなかった。「植民地」という無尽蔵の資源を得たヨーロッパ人は、辺境の特産品を含め、様々な情報を入手し、またその情報が、ジャーナリズムの発展にも影響を与えていく。それは民衆の議論・交渉の場=公共圏を形成したが、物質的な富が人間の貧困と不平等をなくすだろうという展望は、反対に、新たな階級格差の問題を生じさせることになる。啓蒙時代の経済学者アダム・スミスは、『道徳感情論』の中で「公平で中立的な観察者」を想定し、その立場から自分の感情・行動を見るように主張した。ならば、異国から収集した物・情報に本国の人々がどのように関わり、公共生活を形成したのか、博物誌を取り巻く人・モ

ノ・情報の世界を問い直す新しい研究が期待されよう。

ヨーロッパの啓蒙思想は、「人権」理念のもとに、人々の幸福と公正な社会が追究され、国家を越えた全体的連関をもった世界の思潮でもあった。しかし、17世紀の科学革命とそれに続く博物学の発達に伴い、人間を科学的に捉える知の営みによって、「人種」というカテゴリーが確立する。その結果、世界中の民族を文明・未開等の基準を設けて区分し、客観的に認識しようとする文明観、発達史観もまた育まれた。本来、啓蒙は人間の理性によって平等・公平性を掲げた思想であるが、皮肉にもまさにその「科学的思考」こそが、後世の不平等・不公平を育くむことにもなったのである。それでは、文化人類学の発展の土台となった博物学は、どのような科学的領域を形成していったのか。このねじれを理解するために、動植物の収集と分類法、百科事典を通して、近代の知やシステムを正確に把握することは、必要不可欠な作業である。

平等・公平性という視座から博物誌の具体的材料を分析することにより、啓蒙思想の生成、その価値基準が照射されてくる。そこから、啓蒙の精神、すなわち偏見(不公平性)を正し、理性による改善をはかる営みは、理性の普遍性を求める時代の特殊性をも孕んでいたことが解明されよう。博物学と啓蒙思想を関連付けた近年の研究として、国外では Roy Porter の *The Enlightenment* (2001)、Rosemary Sweet の *Antiquaries* (2004)、D. D. Raphael の *The Impartial Spectator: Adam Smith's Moral Philosophy* (2007) が、国内では、宇野重規『トクヴィル 平等と不平等の理論家』(2007)が挙げられるが、モノあるいは知の「公平性」という点に注目して博物誌を検証した先行研究はない。

したがって、本研究では英米文学の研究者が培ってきた精読の手法を用いて、具体的な事象にまつわる過去の資料を精査するとともに、言説・表象分析による歴史・文化史への視座も導入することで、史実に迫り、地球規模の未来を模索するためのより公平な知の営みに貢献することを目的とする。

3. 研究の方法

- (1) 資料収集：一次、二次資料・文献を組織的に調査・収集、分類・整理する。とりわけ、電子テキストについては、研究支援を雇いデータベースを構築し、大量の史料を用いた研究の方法などについての学生教育も行う。
- (2) 理論的整理：博物館・図書館に関する研究書を検討し、博物誌と公平性の研究のための理論的な基盤を整理する。
- (3) 新たな研究基盤の提起：研究会等を定期的に開催することで意見交換を行い、(1)(2)の成果を検討することで、「博物誌」と「公平性」を同時に考察する相乗効果を提起する。

4. 研究成果

以下の通り、17世紀以降のヨーロッパ、とりわけイギリスにおける、博物誌や旅行記、演劇・小説に登場する、新世界やアジア表象についての研究を行った。

(1) オラン・ウータン表象研究

17世紀以降のヨーロッパにおけるオラン・ウータン表象の変遷をたどることで、知の公平と不公平が同じ地平で生じることを、博物誌・地誌・事典の編纂と知の分配という観点から論証した。

(2) シェイクスピア作品のアジアでの受容と変容

シェイクスピア作品が、現在、アジア、とりわけ日本やインド、台湾や韓国において、どのように受容され変容しているかについて、イギリス的な知の分配という観点から研究を行った。17世紀以降のイギリスにおけるシェイクスピアの権威の高まりにしたがって、アジアにおいても、シェイクスピア作品が権力として機能するとともに、産業資本の拡大とともに、商品としても流通しつつあることを明らかにした。

(3) ロビンソン・クルーソー表象研究

18世紀以降のイギリスにおける海洋冒険文学と博物学的知の枠組みの発展についての国際学会 Robinson Crusoe in Asia を行った。とりわけ、イギリス冒険小説の大きな影響下にあった19世紀日本の海洋実録冒険小説における博物学的知の分配について論証した。

(4) パイナップル言説研究

17世紀以降の食文化がイングランドの知の拡大に与えた効果とその意義を、パイナップル言説を分析することで論考した。その際、同時代の博物誌、ジャーナル、トラベル・ライティングに着目することで、パイナップルについての記述があるフランシス・ベイコンのユートピア文学である『ニュー・アトランティス』の博物学的な意義付けを行うことができた。

(5) オラン・ラウト表象分析

19世紀末の東南アジアの描いたイギリスの小説を論じ、オラン・ラウト表象を分析した。

(1)のオラン・ウータン表象研究と合わせて、18世紀から19世紀のイギリス的知の枠組みに、いかに東南アジアが包摂されていくかについて明らかにすることができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

中井 理香、「知」の体系化と拡大 パイナップルの交易をめぐる、立正大学文学部論叢、査読有、139号、2016、73-96

松田 幸子、フレッチャー作『ボンデューカ』における空虚な 武勇 古代ブリテンをどう語るか、Shakespeare Journal、査読有、2号、2016、13-25

吉原 ゆかり、Toward 'Reciprocal Legitimation' between Shakespeare's Works and Manga, University of Gryter、査読有、12巻、2016、未定

中井 理香、ゴシック・ロマンスに現れる公平性 『オトランド城』を中心に、立正大学文学部研究紀要、査読有、31巻、2014年、61-72

中井 理香、イングランド 18世紀後半のゴシック小説、立正大学文学部論叢、査読無、137巻、2014、183-189

松田 幸子、啓蒙の場としてのスコットランド、OBERON、査読有、40.1巻、2014、28-37

〔学会発表〕(計6件)

松田 幸子、Enter Shakespeare into Our Pop World: The Representation of Shakespeare in Japan、第54回シェイクスピア学会、2015年10月11日、北海道教育大学(北海道函館市)

吉原 ゆかり、Irish Drama in Colonial Taiwan and Korea, ASA in Asia、2015年6月23日、Academia Sinica(中華民国台北市)

吉原 ゆかり、Strange Adventures of a Man Who Called Himself a Japanese Robinson Crusoe: Oyabe Jenichiro, Shakespeare in Asia、2014年9月20日、筑波大学(茨城県つくば市)

松田 幸子、Postmodern Shakespeare on Television: Future Center Shakespeare and Contemporary Japan, Shakespearean Journeys The Inaugural Conference of the Asian Shakespeare Association、2014年5月16日、国立台湾大学(中華民国台北市)

荒木 正純、Education for Woman in the Meiji Era in Japan, Asia Pacific Women's Information Network Center、2014年5月14日、淑明女子大学(大韓民国ソウル市)招待講演

松田 幸子、Beyond Postmodern Reality: Japanese Adaptation of Othello and Re-Presentation of Social Issues, International Conference on Literature, Language and Communication: An Essential Trident、2013年12月10日、Amity University (Lucknow, India)

〔図書〕(計3件)

Alexa Huang and Elizabeth Rivlin、Palgrave、Shakespeare and the Ethics of Appropriation、2014、274

吉原ゆかり 他、彩流社、日本表象の地政学、2014年、249(23-45)

荒木正純 他、成城大学グローバル文化研究センター、文化表象のグローバル研究：研究成果中間報告、2013、219(57-109)

〔産業財産権〕
出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

荒木 正純 (ARAKI, Masazumi)
白百合女子大学・文学部・教授
研究者番号：80015883

(2) 研究分担者

松田 幸子 (MATSUDA, Yoshiko)
高崎健康福祉大学・人間発達学部・講師
研究者番号：10575103

吉原 ゆかり (YOSHIHARA, Yukari)
筑波大学・人文社会科学研究科(系)・准教授
研究者番号：70249621

中井 理香 (NAKAI, Rika)
立正大学・文学部・准教授
研究者番号：80366947